

校長室だより



H24(2012年)年度 NO.6

岸和田市立浜小学校 渡瀬 克美

ある本から

「子どもと教師」の会話より

「よく書けた！」

T「誰か、漢字でフシギと書けますか？」

まだ教わっていない文字だが私はマンガの本の中にその文字があったのを思い出した。手を挙げると先生は「ほう！書けるか。ではー」と言って黒板に書くように言われた。やや得意になって「不思議」まで書いたのが、そこではたと行きづまった。「ギ」の扁がどうしても浮かんでこない。立ち往生していると、そばにいた先生が「ゴンベン、ゴンベン」とささやいてくれた。あっと思っだして「議」と書き終えると、

T「ようし！よく書けた！」とほめてくれた。

先生は「なあんだ。書けるんやないか」とは言わなかった。忘れたことをけなすのではなく、そっと手助けをしておいて「よく書けた」とほめてくれた。

教育学で学んだうちのただ一つの記憶に鮮やかなことば

「子どもの美点・長所よりも欠点・短所の方が先に目につくのは教師として悲惨きわまりないことだ」「子どものころの体験と先生の話と結びつけて、心に刻みながら、私は『教育』という未知の世界の入り口がちらっと見え始めたように思った」と筆者は書いておられます。さらにまた、「条件反射⇔人間性の反映」として、子どもが「教室のガラスを割りました」と言ってきた時、どうするか？

・「困った子だなあ」と顔をしかめるか。・「また教室であばれていたんだらう」といって、こわい顔をして見せるか・まず「誰もけがをしなかったか？」と聞くか。

それらの言葉や表情は考えた結果ではなくて、いわば、条件反射的なものであり、ほかならぬ教師の「人間性の反映」というのです。人間性は一朝一夕で変わるものではありません。毎日の積み上げが大切です。

「子どもの立場に立ちきる」など安易に口にできるものではありません。

私も、上述のガラスの話と全く同じことを浜小で聞いたことがあります。ある保護者が20年以上前の先生の話と最近してくれた時のことです。その先生はガラスが割れたとの一報を聞いた時、最初に言った言葉は、まぎれもなく「誰もけがしてない？」だったそうです。その言葉を聞いた彼女（現在の保護者）はその先生の日頃の子どもへの接し方が裏打ちされる「典型的なやさしさを伴った言葉」「誰もけがしてない？」に感動したそうです。「本当に子どもを大切にしてくれる先生でした」とのこと。「なるほど」と深く考えさせられました。



「若木に腰をかけるな」

私も教師になってから中学校の教員であった父親に言われ続けた言葉があります。それは、私の郷里の言葉で「若木に腰をかけるな」という言葉でした。若い小さな木に腰をかけると、まっすぐに伸びるはずの木が折れたり曲がったりしてしまう。そして、若い木を子どもに例えて、子どもたちに対しても同じで、絶対に決めつけたり、見くびったり、ばかにしたりしてはダメだ。誰にでも可能性が未来にあるのだからと……。私が担任として失敗したり、つまずいたりしたときにいつも思い出す言葉です。そんな父親が今年7月に81歳で他界しました。とても優しくて穏やかな父で、殴られた記憶がありません。父の怒りは冷静で、許しは論理的でした。そんな父を育てた母（祖母）のことで、私の記憶の中で鮮明に蘇ってくることがあります。それは、小学校6年生の夏休みに祖母の家に一人で遊びに行った時のことです。寝る前にあまりにたくさんスイカを食べすぎた私は、不覚にも「おねしょ」をしたのです。翌朝、布団を干す際になって、祖母は「ああ また〇〇（父の弟）は、おねしょをして！」と言って、私の失敗をかばってくれたのでした。大人になってからもこのことを思い出すたびに祖母の優しさを感じずにはられません。と同時に優しい父親の人格形成の理由に納得できたのです。

しかし、それに比べてできの悪い、落ち着きのない息子をもって父は、きっと歯がゆかっただろうと、今更に思う今日この頃です。

もうすぐ音楽会

12月5日午前9時30分から校内音楽会です。もちろん幼稚園も参加します。今年目標は「全学年が歌も合奏も協力して、一つになる音楽会」です。今、どの学年も一生懸命取り組んでいます。しかも楽しんで。まさに音を楽しむ「音楽」なのです。浜の子どもたちは、リズム感がよくて、すごいのです。指導は音楽専科の島村先生を中心に各担任の先生。編曲は指導教諭の田中先生です。

歌では言葉の意味を分かってどのように表現できるかなども聴きどころだと考えています。人前で、気持ちよく自分自身を表現できることを期待しています。

当日は、音楽会実行委員の人たちが司会進行してくれます。よろしくお願いします。



校内共同研究授業がありました！

今年度初めての校内研究授業が11月28日（水）にありました。

1年1組澤田先生のクラスです。教科は算数です。

「12-3の計算の仕方を考える」ことでした。子どもたちはブロックやノートを使い本当にいい顔をして学習していました。子どもたちはすごいです。次のような2つの計算の仕方をみんなの前で発表してくれました。

① 12を10と2に分けて $10 - 3 = 7$ 次に $7 + 2 = 9$ という考え方。

② 引く3の方を1と2に分けて、 $12 - 2 = 10$ 次に $10 - 1 = 9$ という考え方を発表してくれました。

実は①の計算方法を減加法といいます。《12からは3は引けないから10から3を引いて（減）あとで2をたす（加）と9になる》

②の計算方法を減々法といいます。《12のうちから3は一度には引けないが、まず2を引く（減）と10となる。更に10から残りの1を引く（減）と9になる》

先生たちの予想したとおりの考え方が出てきたことや子どもたちの表情の豊かさ、そして、みんなの前で発表できる子どもたちを観て、指導してくださっている大阪教育大学教授の新坊先生も「素晴らしい子どもたちですね」と評価していただきました。これから高学年・中学年と研究授業が続きます。「教師は授業で勝負」の言葉のとおり3年目を迎える新坊教授のもと教師力アップに取り組んで参りますので、ご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

